



2021年度年次総会 議事次第

一般社団法人 国際P2M学会

日時：2021年4月18日 日曜日
13:00～13:30

開催形式： オンライン方式 (Zoom)

議事

- | | |
|-------|-----------------|
| 第1号議案 | 議長と総会開催要件の確認 |
| 第2号議案 | 学会会員数の報告 |
| 第3号議案 | 2020年度学会活動報告 |
| 第4号議案 | 2020年度事業収支報告 |
| 第5号議案 | 2021年度基本方針と活動計画 |
| 第6号議案 | 2021年度事業収支計画 |
| 第7号議案 | 2021年度人事 |

以上

2021年4月18日

【議長と総会開催要件の確認】

1 開催と議長

当学会（一般社団法人）の定款では「社員総会」（4章）について、年に1回4月か5月に開催する他、必要がある場合に開催する（13条）、「総会の議長は、代表理事（会長）がこれに当たる」（16条）との規定がある。これにより社員総会を開催する。

2 総会成立要件

成立要件は「社員総会の決議は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、総社員（会員）の議決権の10分の1以上を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う」（18条）と規定されている。以下成立要件を確認する。

正会員数	160名
出席者数（委任状による者も含む）	44名

以上の数を確認の結果、総会の成立を認めることにする。

3 総会の権限

社員総会は、次の事項について決議する（12条）とある。関連議案があるので、ご参照をお願いします。

- （1）社員及び会員の除名
- （2）理事及び監事の選任又は解任
- （3）理事及び監事の報酬等の額
- （4）貸借対照表及び損益計算書ならびにこれらの付属明細書の承認
- （5）定款の変更
- （6）解散及び残余財産の処分
- （7）その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

以上

2021年4月18日

【学会会員数の報告】

定款第5条会員の規定による分類に従い、2020年3月末の学会会員数を報告する。

- | | | | |
|-----------|-----|---|-----------------------------------|
| ① 正会員 | 160 | 名 | |
| ② 法人会員（注） | 5 | 社 | |
| ③ 学生会員 | 20 | 名 | |
| ④ 名誉会員 | 3 | 名 | 学会に貢献した外国人研究者（設立総会にて承認）ならびに学会名誉会長 |

（注）法人会員として年間1口5万円を会費として支払い、5名の会員権利を取得する制度である。

以上

2021年4月18日

【2020年度学会活動報告】

(事業期間2020年4月1日～2021年3月31日)

1. 定期研究発表大会

(1) 第29回春季研究発表大会

「デジタル・トランスフォーメーション (DX) を加速するP2M」のテーマで、4月25日(土)に千葉工業大学習志野キャンパスで開催することを企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の状況を鑑み、予稿集の発行に留めることにした。大会実行委員長は関研一氏(千葉工業大学 社会システム科学部 教授)、同副委員長は小笠原秀人氏(千葉工業大学 社会システム科学部 教授)であった。

予稿集には、基調講演3件のスライドと研究発表予稿21件(4分野)の論文を掲載した。基調講演予定者は以下の3名であった。

吉田邦夫 氏(国際P2M 学会名誉会長、東京大学名誉教授)

和泉憲明 氏(経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 企画官)

西山敏樹 氏(東京都市大学 都市生活学部 准教授、同総合研究所未来都市研究機構生活研究ユニット長)

(2) 第30回秋季研究発表大会

- ・日時 : 2020年10月6日(日)
- ・場所(本部) : 早稲田大学 早稲田キャンパス
- ・大会テーマ : 「危機を乗り越えるP2M」
- ・大会実行委員長 : 岡田久典氏(早稲田大学理工学術院/環境総合研究センター上級研究員)
- 大会実行副委員長 : 永井祐二氏(早稲田大学理工学術院/環境総合研究センター 研究院准教授)
- ・実行形式 : 午前 : 研究発表(事前録画配信のオンデマンド方式)
午後 : 基調講演とパネル討論
(対面とZOOMによるライブ配信のハイブリッド方式)
- ・大会参加者数 : 44名
- ・研究発表 : 13件(4分野)
- ・基調講演 「グローバルヘルスの考え方」(ZOOMによるライブ配信)
講師 : 池上清子氏(長崎大学教授)

- ・パネル討論（対面とZOOMによるライブ配信のハイブリッド方式）

モデレータ：岡田久典氏

（早稲田大学理工学術院/環境総合研究センター上級研究員）

パネリスト：

池上清子氏（長崎大学教授）

白井久美子氏（日本ユニシス（株）執行役員）

吉川成美氏（県立広島大学教授）

島岡未来子氏（早稲田大学教授、神奈川県保健福祉大学教授）

2. アジア展開を意識した国際化の推進

2020年11月に開催予定のアジア革新的エネルギー・環境化学工学会議 ASCON-IEEChE 2020 KOREA の中でプログラムマネジメントのセッションを企画していたが、新型コロナウイルスの影響で会議が2022年11月に延期されたため、実現できなかった。

3. 研究発表大会予稿集および学会誌の発行

学術登録機関の科学技術振興機構（JST）の電子ジャーナル登録・公開システム J-STAGE に春秋2回の研究発表大会予稿集、および、2020年10月30日に学会誌 Vol. 15 No. 1 を、2021年3月26日に Vol. 15 No. 2 を発行した。

4. 学会活性化事業

（1）P2Mオンラインセミナーの開催

田隈広紀氏から提案のあったビギナーズ セミナーをオンラインで行う企画のステップ1・2を実行し、2020年8月3日からYouTubeチャンネル「IAP2M CHANNEL」を設定し、「P2Mの基礎知識（パート1）（パート2）」、「事例によるP2Mの理解（パート1）（パート2）」、「論文の書き方（パート1）（パート2）（パート3）」の3つのコンテンツの配信を行った。

（2）P2Mマガジンの発行

委員長に亀山秀雄氏、副委員長に佐藤達男氏が就いて、学会活動、会員動向、論説、教員公募情報、研究動向、出版などを掲載した「P2Mマガジン」をホームページに掲載している。2020年度は年3回の発刊を目指し、2020年8月15日に第9号、2020年12月28日に第10号、2021年3月29日に第11号を発刊した。

第10号は国際P2M学会設立15周年記念特集号として「プログラムマネジメントの時代」のタイトルに関して、2本の特別寄稿、14本の会員寄稿合計16本の寄稿を掲載することができた。

第11号は「プログラムマネジメント教育の現状と展望」のタイトルに関して、6本の特別寄稿、7本の会員寄稿合計13本の寄稿を掲載することができた。

5. 学会規程の整備

- (1) 国際P2M学会倫理規程を制定した（2020年度総会で承認）。
- (2) 各種の学会活動の位置づけと業務範囲を明確にするため以下の規程を策定した（2021年1月23日の理事会・評議員会合同会議で承認）。

表彰規程、表彰委員会規程、表彰選考内規、機関誌規程、編集委員会規程、論文投稿規程、論文審査規程、学会誌（P2Mマガジン）編集委員会規程、国際P2M学会学術講演会・研究発表大会等規程、国際P2M学会研究大会企画実行委員会規程、総務企画委員会規程

6. 業務の効率化

理事会・評議員会合同会議をはじめとする各種の会議をオンラインで実施するため、ZOOMの利用ライセンス契約を行った。

以上

2021年4月18日

【2020年度事業収支報告】

(2020年度の計画と実績)

1. 2020年度の事業収支報告について

事業期間2020年4月1日～2021年3月31日に於いて、当学会会計責任者が作成した「国際P2M学会2020年度決算書」(1)損益計算書 (2)貸借対照表を本議案に「別紙添付」している。本決算書は、学会監事の監査により、承認をいただいている。以下に年度計画と実績の差異を説明するので、ご審議の上、ご承認をお願いします。

2020年度も前年度に引き続き財政基盤の強化に向けた諸施策を実施した。

主に、論文投稿数の維持、学会誌発行の効率化などにより改善を図ることが出来た。結果、「繰越金」については 昨年度に引き続き増加傾向で確保できた。

1. 1 会員数の推移説明

表1は、事業収入のベースとなる会員数の推移報告である。会員数の増加は多くを望めない厳しい状況にあるが 増強に努める。

表1 会員数の推移

会員	2018年度末実績	2019年度末実績 A	2020年度末実績 B	差異 B-A
正会員	147	162	160	-2
学生会員	16	20	20	0
法人会員	30(6社)	25(5社)	25(5社)	0
計	193	207	205	-2

1. 2 会員数に関するコメント

①正会員数

新規入会と退会の数が拮抗しているが、新しく論文を投稿して発表に参加される大学等の拠点が増えてきたことに伴い会員増強に努める。

②学生会員数

協力いただいている大学等に働きかけ2021年度はさらに増やすよう注力する。

③法人会員数

厳しい状況であるが財務基盤安定のために、引き続き勧誘努力を続ける。

1. 3 事業収入の説明

表2は、事業収入の計画と実績の差異の報告である。2020年度の事業収入は、コロナ禍の影響もあって、大会参加費の減少などにより計画に対して僅かであった減収となった。

表2 2020年度事業収入計画と実績 (単位 円)

事業収入項目	2020年度 計画	2020年度 実績	差異
	A	B	B-A
1. 年会費	1,800,000	1,609,000	-191,000
2. 春季大会開催事業	300,000	221,000	-79,000
3. 秋季大会開催事業	500,000	287,000	-213,000
4. 学会誌発行事業	900,000	810,000	-90,000
5. セミナー開催事業 a	0	0	0
6. 前払金・利息 b	0	401,300	401,300
7. 前年度繰越金	5,525,174	5,525,174	0
収入合計	9,025,174	8,853,474	-171,700

a：P2M ビギナーズ・セミナーは動画配信（無料）にて実施した。

b：次年度前払金（年会費・大会参加費）と受取利息。

2. 事業支出の部

表3は、2020年度の事業支出の計画と実績の差異の報告である。2020年度は、コロナ禍の影響を受けて、組織運営費削減、オンライン開催による大会運営費低減などにより計画値に対して400万強の支出減になった。

表3 2020年度事業支出計画と実績 (単位 円)

支出の部	2020年度計画	2020年度実績	差異
	A	B	B-A
1. 学会組織運営費 a	700,000	352,118	-347,882
2. 業務委託費 b	600,000	539,111	-60,889
3. 春季大会開催費	300,000	120,000	-180,000
4. 秋季大会開催費	700,000	207,263	-492,737
5. 学会誌・マガジン c	900,000	636,006	-263,994
6. セミナー開催費	200,000	56,000	-144,000

7. 表彰制度関係費 .	200,000	0	-200,000
8. 研究・研修関係費 ^d	1,000,000	0	-1,000,000
9. 会員サービス活動 ^e	500,000	96,000	-404,000
10. 法人都民税他	100,000	70,000	-30,000
11. 予備・引当	1,000,000	0	-1,000,000
支出合計	6,200,000	2,076,498	-4,123,502

- a. 組織運営費とは、理事会、評議員会、事務局運営に関する資料作成、会議室賃貸、印刷費、交通費、会議費、備品購入、郵送費などの費目の総計である。
- b. 業務委託費とは、国際文献社アカデミーセンターに委託契約している学会事務所の設置、会員管理、年間2回の会費請求、役員改選などの連絡業務である。
- c. 学会誌・予稿集の編集費、査読費用、マガジン編集費等が含まれている。
- d. 各種研修に向けたP2M学会新刊本のストックの購入費を含む。
- e. 学会ホームページの改善費（新規構築）ならびに現状ホームページの運用費を含む。

3. 2020年度の総合収支報告

表4は2020年度の総合収支の結果である。お陰さまで、皆様のご支援により、「繰越金」は当初の年度計画より増額となり、引き続き維持できた。これは、主に計画より支出が大幅に減少したことによるものである。

表4 総合収支の部 (単位 円)

	2020年度計画	2020年度実績	差異
	A	B	B-A
1. 収入の部	9,025,174	8,853,474	-171,700
2. 支出の部	6,200,000	2,076,498	-4,123,502
3. 総合収支 a.	2,825,174	6,776,976	3,951,802
4. 次期繰越金	2,825,174	6,419,984	3,594,810

- a. 実績の総合収支Bには40万円の次年度収入(前受金)が含まれている。

「前受金(流動負債)」は、翌年度会計で「収入」に反映する。

会員のご支援に感謝し、引き続き一層のご支援をお願いする。

以上

国際P2M学会2020年度決算報告書

(但し、2020年4月1日～2021年3月31日まで)

(1) 損益計算書

(単位：円)

収 入	支 出		
前期繰越	5,525,174	事務運営費	352,118
年会費・入会金	1,609,000	業務委託費(国際文献社)	539,111
春季大会	221,000	春季大会	120,000
秋季大会	287,000	秋季大会	207,263
論文掲載料	810,000	論文(査読・編集等)マガジン発行費用	636,006
資格試験受験料・更新料	0	資格認定証発行費用	0
		研修・研究関連	0
		会員サービス関連	96,000
ビギナーセミナー	0	ビギナーセミナー	56,000
		法人都民税	70,000
前払い年会費・入会金	318,000	資格制度関連	0
前払い次年度春季大会参加費	52,000	表彰・感謝状関連	0
前払い次年度春季大会懇親会費	0		
仮払い返金	31,288	小 計	2,076,498
利息	12	総合収支	6,776,976
合 計	8,853,474	合 計	8,853,474

(2) 貸借対照表


(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	6,789,984	年会費前受金	318,000
普通預金(SMBC飯田橋支店)	1,319,863	春季大会参加費前受金	52,000
郵便振替預金(文京関口一局)	5,470,121	春季大会懇親会費前受金	0
現金	0	学会誌14巻2号論文掲載料前受金	0
		流動負債合計	370,000
		1. 固定負債	
流動資産合計	6,789,984	固定負債合計	0
		負債合計	370,000
1. 固定資産		III 正味財産の部	
固定資産合計	0	前期繰越正味財産	5,525,174
		当期正味財産増加額(減少額)	894,810
		正味財産合計(正味負債)	6,419,984
資産合計	6,789,984	負債及び正味財産合計	6,789,984

監査報告書

国際 P2M 学会の 2020 年度（2020 年 4 月 1 日 より 2021 年 3 月 31 日 まで）の決算報告書を詳細監査しました結果、すべて適正に処理されており、正確であることを確認しましたので、本書をもって報告いたします。

2021 年 4 月 5 日

監事 白井久美子 印 

2021年度年次総会 第5号議案

2021年4月18日

【2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）基本方針と活動計画】

1. 基本方針

社会・行政・産業が直面する課題を解決するプログラムとプロジェクトを対象としたマネジメントの知識を、理論と実践の両面から体系化することをめざす。2021年度は、SDGsを含むSociety 5.0（社会変革）、国家的イノベーション、デジタル変革時代の企業経営に適用可能なマネジメントの研究を推進する。

2. 活動計画

2. 1 研究発表大会

(1) 第31回春季研究発表大会

- ・ 日時： 2021年4月18日(日)
- ・ 開催方法：午前（研究発表）：オンデマンド配信
午後（基調講演とパネル討論）：ライブ配信
- ・ テーマ：超 VUCA 時代の社会変革とプログラムマネジメント
- ・ 大会実行委員長：当麻哲哉氏（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）
大会実行副委員長：白坂成功氏（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）
- ・ 大会企画委員長：久保裕史氏（公益社団法人 JAPAN of ASIA 代表理事）
大会企画副委員長：沖浦文彦氏（東京都市大学 都市生活学部教授）、
小笠原秀人氏（千葉工業大学 社会システム科学部教授）
- ・ 予稿集編集委員長：佐藤達男氏（広島修道大学 経済科学部教授）
- ・ 研究発表大会の集客と投稿数の増加を目的として以下の団体との協賛大会とする。
一般財団法人 エンジニアリング協会、公益社団法人 化学工学会、一般社団法人 情報サービス産業協会、一般財団法人 日本科学技術連盟、日本 SPI コンソーシアム、一般社団法人 日本生産管理学、特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会、一般社団法人 PMI 日本支部、一般社団法人 プロジェクトマネジメント学会

(2) 第32回秋季研究発表大会企画案

- ・ 日時：2021年10月
- ・ 開催校：北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)
- ・ テーマ：TBA
- ・ 大会実行委員長：内平直志氏 (JAIST 副学長、教授、東京サテライト長)
- ・ 大会実行副委員長：TBA
- ・ 大会企画委員長：沖浦文彦氏 (東京都市大学 都市生活学部教授)、
大会企画副委員長：小笠原秀人氏 (千葉工業大学 社会システム科学部教授)
- ・ 予稿集編集担当：加藤智之氏 (NTT データエンジニアリングシステムズ オートモ
ーティブソリューション事業部 先端ソリューション推進部、名古屋工業大学大学
院 ながれ領域 社会工学専攻マネジメント分野 研究員)
- ・ 開催方式については、コロナ禍のリスク回避の観点から全面オンラインを想定。

2. 2 国際P2M学会誌の発行

春季研究発表大会および秋季研究発表大会の投稿論文の中から学術的に優れた論文を選定して査読を行い、2021年9月に16巻1号、2022年3月に16巻2号を発行する。

編集委員会：武富為嗣氏 (委員長)、佐藤達男氏 (16巻1号の編集責任者)、加藤智之氏 (16巻2号の編集責任者)、論文査読委員

2. 3 学会誌 (P2Mマガジン) の発行

社会を取り巻く環境変化を話題の中心にすえた雑誌として2016年6月創刊以来の年2回のペースで発行してきた。第10号発刊を契機に、本マガジンを学会外部からの情報も取り入れるプラットフォームと位置づけ、年4回発行、毎回特集を組むこととし、3月、6月、9月、12月の発行を目指す。

10号特集 「プログラムマネジメントの時代」(昨年12月 発行済)

11号特集 「プログラムマネジメント教育の現況と展開」(3月発行済)

12号特集 「科学技術とイノベーションを確実に実行するプログラムマネジメント」(6月発行予定)

・学会誌 (P2Mマガジン) 編集委員会：亀山秀雄氏 (委員長)、佐藤達男氏 (副委員長)

2. 4 学会HPのリニューアル

スマートフォンや動画アプリなど現在の利用者環境の変化に対応し、学会会員の利便性を向上するため、2021年度第一四半期を目途に、現在のHPのリニューアルを実施する。

・学会 HP リニューアルワーキンググループ：白井久美子氏（座長）

2. 5 セミナーの企画実行

YouTube チャンネル「IAP2M CHANNEL」の内容の充実を図るとともに、オンラインによる論文作成指導の可能性を検討する。

3. P 2 Mの普及および会員増加策

- (1) 2022年に開催される ASCON や化学工学会との連携をねらい“P 2 Mセッションを化学工学者向け R&D マネジメントの方法論や、ASCON のテーマとなる基礎技術や環境技術を事業化するプロセスなどを発表・討論する「場」”にする具体策の検討を開始する。
- (2) 会員増加策として発表のみの参加者を受け入れやすい発表枠の仕組みを検討する。
- (3) 研究発表大会の協賛団体を増やすとともに、協賛団体会員からの発表の場の設定も検討する。

4. 学会業務の改革の検討

各種の学会活動の位置づけと業務範囲を明確にするため、2020年度に引き続き学会規程の整備を図る。各担当業務の稼働の平準化をはかり、担当者のインセンティブと責任のバランスが取れるように配慮する。

以上

2021年度年次総会 第6号議案

2021年4月18日

【2021年度事業収支計画】

2021年度の事業期間は、2021年4月1日から～2022年3月31日となる。

下記を提案するので、よろしくご審議とご承認をお願いする。

1. 会員予測と前提

前年度会員数を基礎に本年度の努力目標を下記に設定する。よろしく会員のご協力とご尽力をお願いする。

表1 2021年度会員目標

会員の構成	2021年3月末実績	2022年3月末会員目標
正会員	160名	170名
学生会員	20名	25名
法人会員	25名(5社)	30名(6社)
合計	205名	225名

* 正会員、学生会員は それぞれ10名、5名の純増を見込む。

** 法人会員については、1社(5名分)増に向けて努力する。

2. 2021年度事業収支計画

会員数ならびに春季・秋季大会参加者数の予測などを前提に事業収入を計画し前期繰越金を参入する。

表2がその内容である。

表2 2021年度の事業収入計画 (単位 円)

事業収入項目	収入計画
1. 年会費	1,800,000
2. 春季大会開催事業 注1	300,000
3. 秋季大会開催事業 注1	300,000
4. 学会誌発行事業 注2	900,000
5. 前年度繰越金 注3	6,419,984
収入の部 合計(A)	9,719,984

注1：オンライン開催の大会参加者数を春季40人、秋季40人として試算した。

注2：学会誌掲載論文数を春・秋大会は合わせて30編として計上した。

注3：事務運営の効率化などを積み重ねた結果である。

表3は、本年度の支出計画である。今年度活動計画の注力事業の予算を反映している。単年度黒字を確保するために厳しい予算計画となっている。

表3 2021年度支出計画 (単位 円)

事業支出項目	予算計画
1. 学会組織運営費 注1	500,000
2. 業務委託経費 注2	600,000
3. 春季大会開催費 注3	250,000
4. 秋季大会開催費 注3	250,000
5. 学会誌・マガジン発行費用 注4	1,000,000
6. セミナー開催費 注5	200,000
7. 表彰・感謝状制度関係費 注6	200,000
8. 研究・研修・普及資料作成費注7	1,000,000
9. 会員サービス活動費注8	500,000
10. 一般社団 税 注9	100,000
11. 予備・引当 注10	1,000,000
支出の部 合計(B)	5,600,000

注1. 理事会、評議員会、事務局運営に関する資料作成、会議室賃貸、印刷費、交通費、会議費、備品購入、郵送費などの費目の総計である。大学拠点に関するマーケティング活動費も含めた。

注2. 国際文献社アカデミーセンターに委託契約している学会事務所の設置、会員管理、年間2回の会費請求、役員改選、などの連絡業務である。

注3. 大会開催関連費である。予稿集編集・電子保持、講演・パネル謝礼、準備調整費などである。

注4. 論文査読、編集、電子ジャーナル(J-STAGE登録)、年4回のマガジン発行諸費用、関連する会議費などの費用である。

注5. ビギナーズ・セミナーなどの実施に要する教材、講師謝礼など最小費用を計上した。

注6. 表彰状・感謝状の作成や記念品・副賞などの費用である。

注7. 特別研究活動費並びに研修及び普及に向けた資料作成費用、ならびに関連図書の購入などを見込む

注8. 2021年度は ホームページのリニューアル版を公開し、会員の利便性向上を図る。

注9. 一般社団に関わる法務局や東京都に関する費用や税を指す。

注10. 組織運営費、大会参加者数の変動等への引当準備をする。

また国際会議参画準備の予備費を手当しておく。

事業収支計画は、年会費・大会参加費収入や、コスト変動などの前提はあるが、単年度収支で黒字維持に注力する。

表4 2021年度事業収支計画 (単位 円)

項目	金額
収入計画 (表2 A)	9,719,984
支出計画 (表3 B)	5,600,000
総合収支 (A-B)	4,119,984

以上のご承認をお願いします。

以上

2021年4月18日

【2021年度人事】

下記の人事については、2020年10月31日、2021年1月23日ならびに2021年3月27日開催の理事会・評議員会合同会議に於いて了承されたので 本総会で審議の上、承認をお願いする。

2021年度よりの理事、監事、評議員の候補者

任期 2021年4月18日～2023年4月総会

(1) 理事・監事

①任期満了に伴う理事の退任（2名）

理事退任 小原重信氏

理事退任 綿木久雄氏

②新任理事の推薦（1名）

候補者 和田義明氏 現在当学会の評議員
東京農工大学理事（事業推進担当）
株式会社タケショー 常務取締役

③任期満了に伴う理事・監事の再任（5名）

代表理事再任 山本秀男氏

理事再任 亀山秀雄氏

理事再任 久保裕史氏

理事再任 湯野川恵美氏

監事再任 白井久美子氏

(2) 評議員

①任期満了に伴う評議員の退任 (1名)

評議員退任 和田義明氏

②新任評議員の推薦 (3名)

候補者 小原重信氏

候補者 綿木久雄氏

候補者 小笠原秀人氏

(千葉工業大学 社会システム科学部 教授)

③任期満了に伴う評議員の再任 (12名)

評議員会議長再任 武富為嗣氏

評議員再任 喜多一氏

評議員再任 谷口邦彦氏

評議員再任 根本敏則氏

評議員再任 松井啓之氏

評議員再任 吉川厚氏

評議員再任 堀口正明氏

評議員再任 田隈広紀氏

評議員再任 佐藤達男氏

評議員再任 中村明氏

評議員再任 沖浦文彦氏

評議員再任 岡田久典氏

(3) その他、

2021年4月1日付け

①大会企画委員長 沖浦文彦氏 (新任)

②大会企画副委員長 小笠原秀人氏 (再任)

③表彰委員会委員長 亀山秀雄氏 (新任)

④学会誌編集委員会委員長 武富為嗣氏 (新任)

⑤事務局長 和田義明氏 (新任)

以上